



上川井だより

7月号

平成29年6月30日
横浜市立上川井小学校
校長 山田 アイ子

「みんなちがって みんないい」

学校長 山田 アイ子

6月28日(水)に旭公会堂で、「よこはま国際スピーチコンテスト」が行われました。旭区内の24小学校の代表児童が、一堂に会し「国際平和について自分がやりたいこと」をテーマに、スピーチをしました。一口に国際平和と言っても様々な視点があります。差別、平等、いじめ、助け合い、平和、協力、責任、貧困や飢餓、健康、環境、世界と日本…など、身近なことから「平和とは何か」を考える子もいれば、自分自身や家族のことから気づいたことを伝えたり、本やニュースからの情報で考えを広げたり、深めたりしている子もいました。24校の代表は、全員が6年生でした。まだ、たった11、12歳の経験しかない子どもたちが、一生懸命に自分の思いを伝えようとする姿は立派でした。

子どもたちのスピーチの中に、差別や人権、平等…の言葉が出てきたとき、私が、ふと、思い出したのが「金子みすゞ」さんです。あの有名な詩「私と小鳥と鈴と」を、ご存知の方も多いと思います。題名は「私と小鳥と鈴と」なのですが、多くの方が題名は「みんなちがって みんないい」だと思ってしまうほど、「みんなちがって みんないい」のフレーズが知られています。

作者の「金子みすゞ」さんは、1930年に26歳で亡くなりました。今から90年近く前になります。90年近くも前の時代に「みんなちがって みんないい」という考えは、世の中の人にどのように受けとめられたのでしょうか。

今だから、「みんなちがって みんないい」とは、一人一人が、それぞれに輝いている大切な存在だという意味だと分かります。また、「あなたは、あなたでいいんだよ」という、すべての存在が、そのまま素晴らしいんだと伝えていることもわかります。

でも、ときどき「みんなちがって みんないい」の解釈を「好き勝手にいい」に、していないだろうかと感ずることがあります。こんなに素敵な言葉を、自分の行動の正当化や失敗をごまかすために、使っていないか…と、心配になるのです。

そして、私は、子どもたちのスピーチを聞きながら、本校の子どもたちのことを考えました。本校の子どもたちは、素直で明るく、元気です。友達のよい面を認め、課題があっても、それも個性の一つとして受け入れるよさもあります。けれど、自分に自信をもてない子が多いように感じています。

あらためて思いました。

「もっと、自分に自信をもって、あなたは、あなたで素晴らしいんだよ」と、子どもたち一人一人が大切な存在であることを、声を大にして伝えていきたいと思えます。

私と小鳥と鈴と
金子みすゞ

私が両手をひろげても
お空はちっとも飛べないが
飛べる小鳥は私のように
地面を速くは走れない

私がかからだをゆすつても
きれいな音は出ないけど
あの鳴る鈴は私のように
たくさんな唄はしらないよ

鈴と小鳥とそれから私
みんなちがって みんないい